

日時:平成27年1月14日(水)19:00～21:00

場所:佐土原総合文化センター

第25回宮崎海岸市民談義所

議事次第

本日の流れ

1. 宮崎海岸の侵食対策の概要
2. 第24回宮崎海岸市民談義所の振り返り
3. 埋設護岸の検討経緯のおさらい
4. 動物園東の埋設護岸について
5. 工事の予定
6. 今後のスケジュール
7. その他

国土交通省 宮崎河川国道事務所
宮崎県

本日の流れ

1. 宮崎海岸の侵食対策の概要
2. 第24回宮崎海岸市民談義所の振り返り
3. 埋設護岸の検討経緯のおさらい
4. 動物園東の埋設護岸について
5. 工事の予定
6. 今後のスケジュール
7. その他

1. 宮崎海岸の侵食対策の概要

宮崎海岸保全の基本方針

- 5 -

◆目的

- ・海岸の環境や利用と調和を図りつつ、海岸侵食に脅かされる海岸背後地の人々の安全・安心を確保するとともに、国土を保全する。

◆目標

- ・「背後地(人家、有料道路等)への越波被害を防止すること」を防護目標とし、そのために必要な「浜幅 50m の確保」を達成することを目指す。
- ・現況汀線位置が浜幅 50m 以上である区域については、流砂系も含めた対策により、その保全・維持を目指す。

◆考え方

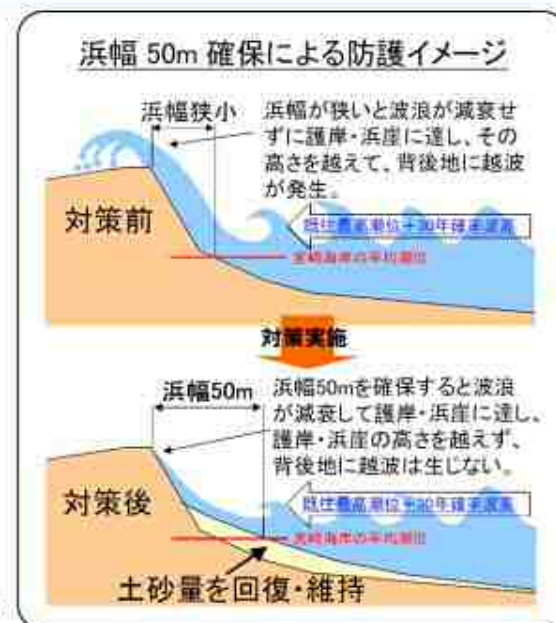
- ・北からの流入土砂を増やすこと(機能①)、南への流出土砂を減らすこと(機能②)により、これまでに失われた宮崎海岸の土砂量を回復・維持し、砂浜を回復・維持する。
- ・急激な侵食の危険性がある区域において、浜崖頂部高の低下を防ぐ(機能③)。

◆配慮事項

- ・新たに設置するコンクリート構造物は出来るだけ減らす。
 - ・それぞれの区域の特徴に応じたものとする。
 - ・豊かな自然環境を最大限残す。
 - ・美しい景観、漁業・サーフィン・散歩等の利用に配慮する。
 - ・(直轄)工事完了後も維持管理に過剰な負担がかからないようにする。
 - ・山、川、海における土砂の流れに出来るだけ連続性をもたせ、将来は自然の力による砂浜の回復・維持を目指して、様々な取り組みを行っていく。
- ただし、その取り組みは時間がかかることから、当面は他事業とも連携した養浜を積極的に実施していく。

◆事業の進め方

- ・今後もこれまでと同様、「宮崎海岸トライアングル」および「宮崎海岸ステップアップサイクル」の考え方に基づいて進めていく。



宮崎海岸の侵食対策

- 6 -



よう ひん 養 浜

すなはま やしな りくじょう かいちゅう じんこうぎ
 “砂浜を養う”ために陸上または海中へ人工的に
 すな い
 砂を入れることです



とっ てい 突 堤

りく うみ せき ほそなが の ていぼう
 陸から海に向けて細長く伸びる堤防のこと
 かいがんせん そ うご すな と
 海岸線に沿って動く砂を止めることができます



まいせつごがん 埋設護岸

しぜん ていぼう さきゅう はまがけ
 自然の堤防である砂丘がくずれないように、浜崖の
 ねもと なみ まち すな なか う ごがん
 根元を波から守る「砂の中に埋まった護岸」です



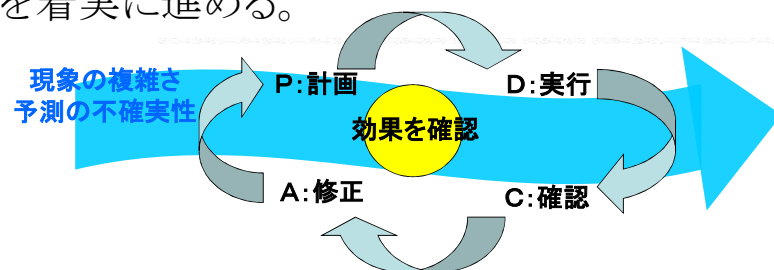
宮崎海岸侵食対策の技術検討の流れ

- 7 -

～技術検討から対策の実施と効果検証～

宮崎海岸ステップアップサイクル

どのような方法をとればよいかを検討・実施し、効果を確認しながら、修正・改善を加えて、対策を着実に進める。



宮崎海岸侵食対策は、
「侵食対策の検討、計画」から、
「侵食対策の実施、効果・影響の確認」の段階に。



ステップ4（対策の実施と効果検証）

修正・改善、工夫

対策の修正・改善、工夫の内容や
計画の変更について検討する。

効果影響の確認

各種調査を実施するとともに、併せて環
境・景観・利用の関係者からの声を聴くこと
により対策の効果・影響を確認する。

侵食対策の実施

機能①: 養浜、山から海への土砂管理
機能②: 突堤
機能③: 埋設護岸

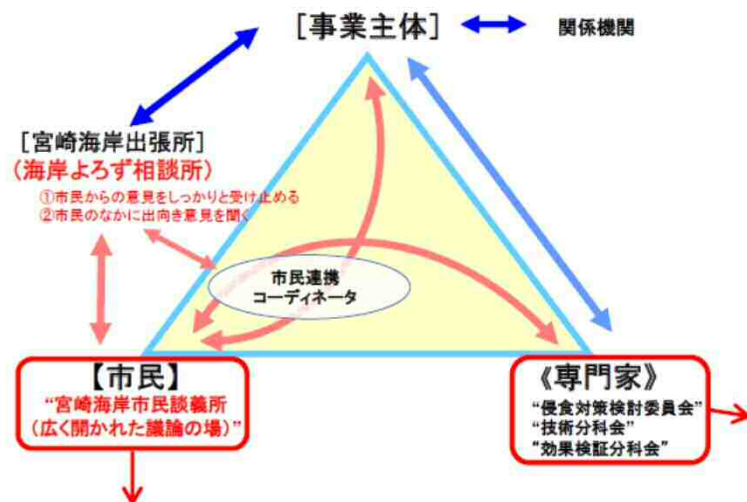
体制と運営方針

- 8 -

～委員会、技術分科会、効果検証分科会、市民談義所～

宮崎海岸トライアングル

宮崎海岸の砂浜の保全を目的として、行政・市民・専門家が三者一体となって進める。



侵食対策検討委員会

- ・今後は、侵食対策の計画段階から、侵食対策の実行・確認(必要に応じて修正)段階へと移行するため、委員会の設置目的を追加・変更して、現委員会を基本としつつ発展させた委員会を継続する。
- ・毎年1回以上開催し、調査結果等から、侵食対策の効果・影響を確認し、侵食対策の継続または修正の必要性等について協議する。

宮崎海岸市民談義所

- ・今後も「広く開かれた議論の場」として継続する。
- ・さらに、興味・関心のある多くの市民が参加できる機会を作っていく。
- ・市民と連携した調査も模索していく。
- ・調査結果の報告、侵食対策実施状況、それらの修正・改善等について談義していく。

技術分科会

- ・委員会の付託により、技術的な検討が必要になった場合に適宜開催し、検討する。

効果検証分科会

- ・委員会の付託により、毎年1回以上開催し、検討する。

2. 第24回宮崎海岸市民談義所の振り返り



- (1) 本日までの談義所、分科会、委員会の開催状況
- (2) 第24回宮崎海岸市民談義所の開催概要
- (3) 第24回宮崎海岸市民談義所での宿題回答

(1) 本日までの談義所、分科会、委員会の開催状況

- 10 -

第23回宮崎海岸市民談義所

□開催日時: 平成26年9月7日(日)
□場所: 宮崎市佐土原地区交流センター学習室

第3回効果検証分科会

□開催日時: 平成26年9月26日(金) 14～16時
□場所: 宮崎市佐土原総合支所2階研修室

第10回技術分科会

□開催日時: 平成26年9月26日(金) 10～12時
□場所: 宮崎市佐土原総合支所2階研修室

第13回宮崎海岸侵食対策検討委員会

□開催日時: 平成26年11月6日(金) 10～12時
□場所: 宮崎公立大学 交流センター多目的ホール

付託事項の追加

第11回技術分科会

□開催日時: 平成26年11月27日(木) 13時半～15時半
□場所: 宮崎市住吉公民館

第24回宮崎海岸市民談義所

□開催日時: 平成26年12月9日(火)
□場所: 宮崎市佐土原総合支所

第25回宮崎海岸市民談義所

□開催日時: 平成27年1月14日(水)
□場所: 宮崎市佐土原総合文化センター

(2) 第24回宮崎海岸市民談義所の開催概要

- 11 -

①開催概要

- 開催日：平成26年12月9日（火）
- 場所：佐土原総合支所 2階 研修室
- 参加者数：20名
- 議事概要：
 1. 宮崎海岸の侵食対策の概要
 2. 第23回宮崎海岸市民談義所の振り返り
 3. 技術分科会、効果検証分科会、委員会の開催概要
 4. 第13回委員会の結果報告
 5. 第11回技術分科会の結果報告
 6. 埋設護岸のステップアップの検討
 7. 今後の侵食対策工事等
 8. 今後のスケジュール

平成26年に来襲した台風による埋設護岸の変状の要因について検討結果を説明した。また、この結果を受けて埋設護岸のステップアップの検討について説明し、大炊田海岸埋設護岸の復旧および住吉海岸動物園東地区埋設護岸の新設案を示し、意見交換を行った。

事務局側の説明資料を追加して、1月に再度市民談義所を開催することとなった。



(2) 第24回宮崎海岸市民談義所の開催概要

- 12 -

②談義の概要

✚ 談義の概要

赤字：第25回市民談義所までの事務局の宿題

市民の方からの意見	回 答
＜埋設護岸の構造について＞ □対象とする外力を明確にすべきである。 □養浜は何度やればいいのか。 □変状の起こった箇所と海底地形の関係はあるのか。 □アスファルトマットの必要性和目的を教えてください。 □今年の台風はこれまでの台風と比べて大きいとは言えなかった。サンドバックが本当に大きな波が来たときに持つのか心配である。	＜事務局と専門家の共通意見＞ □養浜を未来永劫続けることは不可能なので、海岸の対策と同時に川からの土砂を増やす対策を進めていく。 ＜専門家＞ □設計は1回の波を対象としているが、今年は台風が5回連続で来た。この状況で、浜崖が後退していないのは、埋設護岸の効果があったと言えると考えている。 ※変状箇所と海底地形の関係(①)およびアスファルトマットの必要性・目的(②)については次回までに整理する。
＜動物園東のサンドバック設置位置について＞ □侵食が進んだからといって、サンドバックの設置位置を陸側に寄せるのは考え方がおかしいのではないか。 □対策の目標浜幅50mの基準線は変えないと言われてきたので納得がいかない。 □台風が来るたびに砂丘が侵食され、それに伴いサンドバックの位置も後退するのか。 □現在の浜崖面の位置は有料道路のインターチェンジ近くまで迫っている。有料道路が通行できなくなるまで長くないのではないか。	＜事務局＞ □目標浜幅50mの基準線は平成20年8月の浜崖頂部の位置としており、これは浜崖面が後退しても変えていない。 □サンドバックの位置はできるだけ前に出したいが、これ以上前に出すと施工が難しくなる。なるべく早く対策をするためには、提案した場所に置くのが良いと考えている。 ＜専門家＞ □サンドバック設置と、回復する砂浜の目標位置には関係がなく、砂浜の回復は北からの流入土砂を増やすことと、南への流出土砂を減らすことの二つの対策で目標浜幅50mを達成させる。
＜その他＞ 12/6のビーチクリーンには300人が参加した。それだけの人の想いを感じて談義を進めてほしい。 □正月には初日の出を見に大勢の人が動物園東の砂浜に集まるので、立ち入り禁止を解除してもらいたい。 □突堤の北側には砂は溜まっているのか。	＜市民連携コーディネータ＞ □次回のビーチクリーンには参加させていただきたい。 ＜事務局＞ ※突堤周辺での砂の状況については次回までに整理する。(③) ※早期の立ち入り禁止解除に向けて、安全性を確保しているところである。(④)

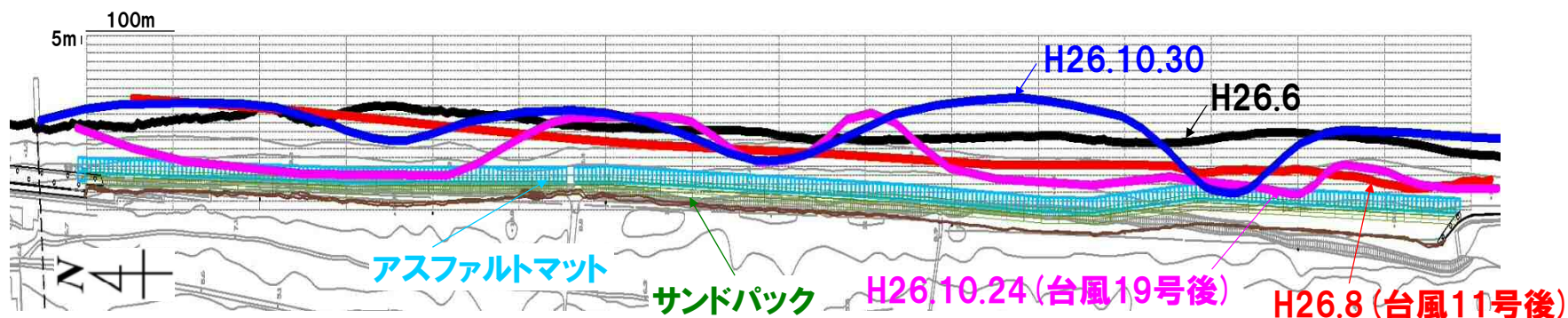


市民連携
コーディネータのまとめ

侵食対策の目標浜幅の基準線についてと、サンドバック設置位置の決め方について、もう少しじっくり説明をしたほうが良いようなので、事務局が資料を揃えて再度市民と談義してほしい。

- 13 -

**汀線が陸側に大きく凹み、アスファルトマット、サンドバックに接近した箇所周辺で
変状が生じている**

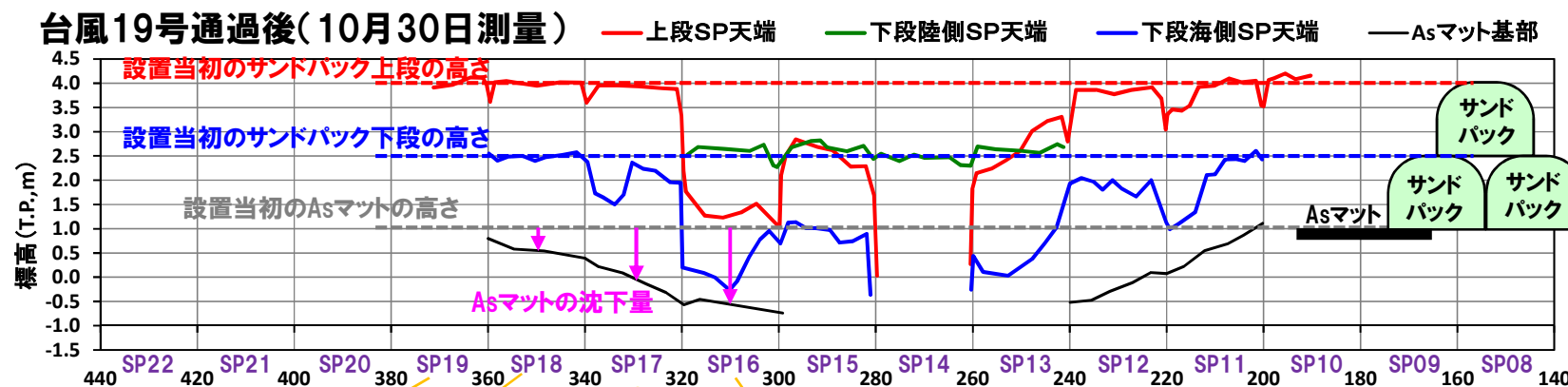
[illegible]

第24回市民談義所資料に汀線位置を追加

(3) 第24回宮崎海岸市民談義所での宿題回答

- 14 -

②アスファルトマットの必要性について



平成26年10月31日撮影



平成26年10月31日撮影

(3) 第24回宮崎海岸市民談義所での宿題回答

- 15 -

③突堤の効果

■レストハウス前面の砂浜より



■レストハウス前面の堤防上より



※潮位はほぼ平均潮位
(T.P.-0.07m)

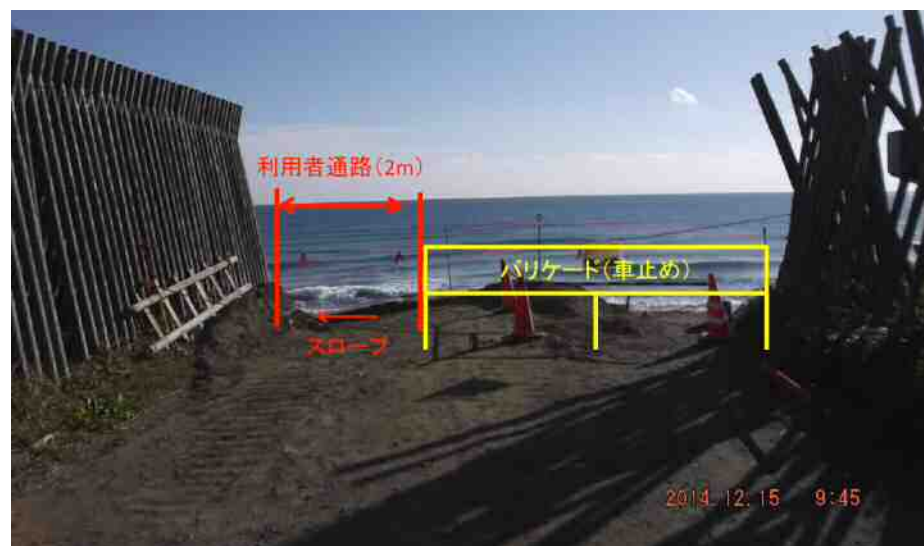
平成26年12月9日14時半頃撮影

(3) 第24回宮崎海岸市民談義所での宿題回答

- 16 -

④ 立ち入り禁止解除の実施状況

■ 動物園東 里道からのアクセス箇所の整備状況



平成26年12月15日撮影

3. 埋設護岸の検討経緯のおさらい



- (1) 侵食対策に必要な3つの機能とは
- (2) 目標浜幅50mについて
- (3) 埋設護岸とは
- (4) 埋設護岸の位置の決め方について
 - ① アスファルトマットの設置高(T.P.+1m)について
 - ② サンドバックを浜崖から18m離す意味について
- (5) 埋設護岸のステップアップについて

(1) 侵食対策に必要な3つの機能とは

① 養浜、突堤、埋設護岸のそれぞれの役割(1/3)



よう ひん 養 浜

すなはま やしな りくじょう かいちゅう じんこうぎ
“砂浜を養う”ために陸上または海中へ人工的に
すな い
砂を入れることです



とっ てい 突 堤

りく うみ せき ほそなが の ていぼう
陸から海に向けて細長く伸びる堤防のこと
かいがんせん そ うこ すな と
海岸線に沿って動く砂を止めることができます



まいせつごがん 埋設護岸

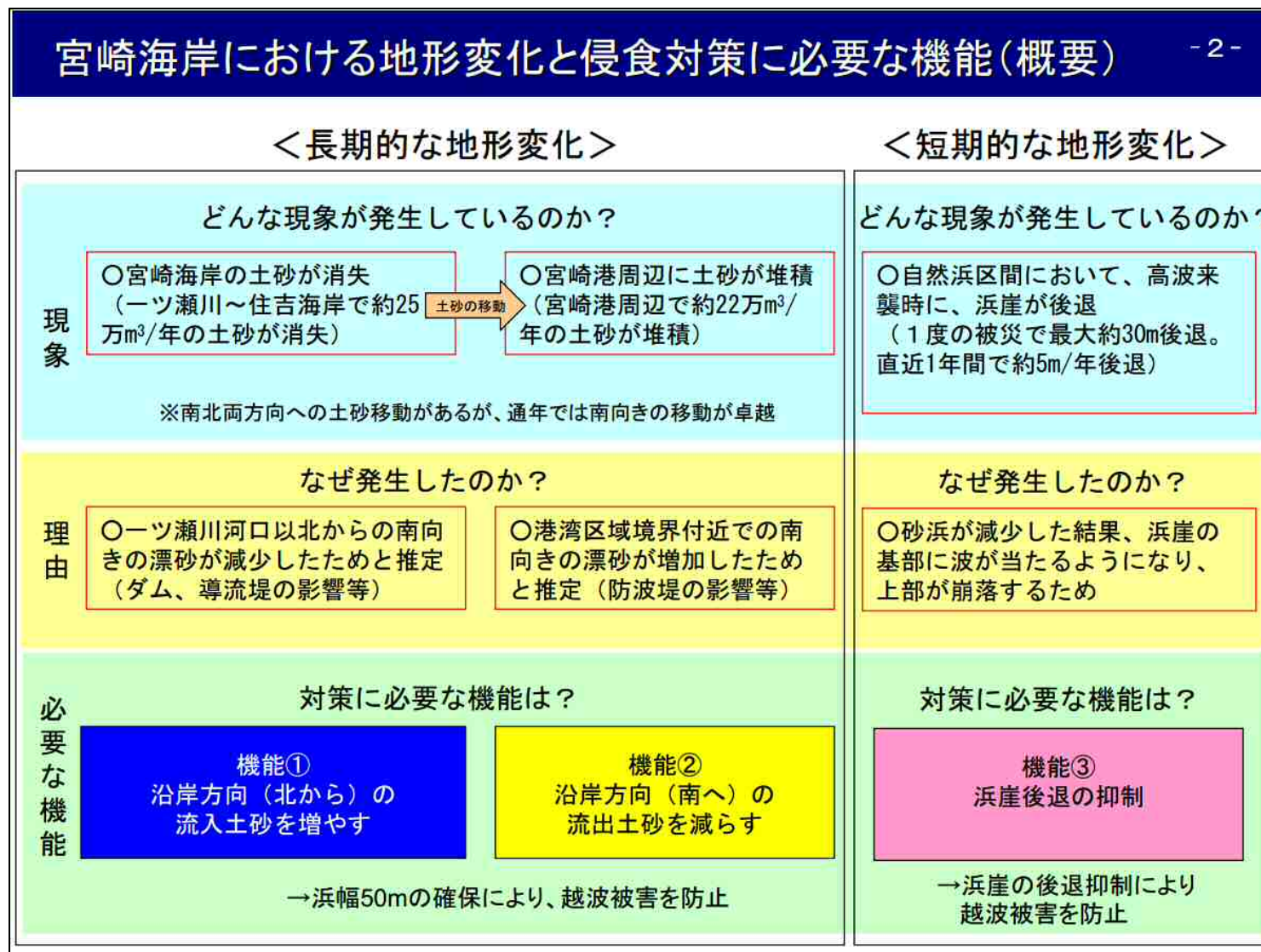
しぜん ていぼう さきゅう はまがけ
自然の堤防である砂丘がくずれないように、浜崖の
ねもと なみ まち すな なか う ごがん
根元を波から守る「砂の中に埋まった護岸」です



(1) 侵食対策に必要な3つの機能とは

- 19 -

① 養浜、突堤、埋設護岸のそれぞれの役割(2/3)



(1) 侵食対策に必要な3つの機能とは

- 20 -

①養浜、突堤、埋設護岸のそれぞれの役割(3/3)

長期的な地形変化(侵食)の対策に求められる機能

- 22 -

(宮崎海岸の侵食対策に求められる機能①②)

①一ツ瀬川導流堤より北側から南向きへの漂砂を増加

②港湾区域付近での南向きへの漂砂を減少

→宮崎海岸の土砂収支バランスを取る必要がある。



侵食対策に求められる機能

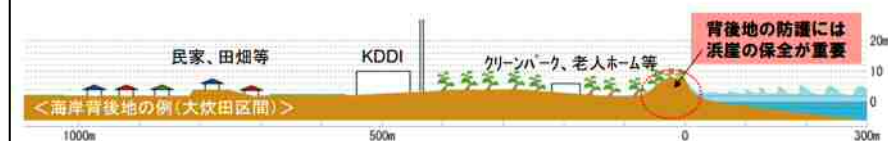


短期的な地形変化(浜崖の後退)の対策に求められる機能

- 23 -

(宮崎海岸の侵食対策に求められる機能③)

○機能①、機能②の2つの視点により検討された対策により浜幅を確保しても、背後地への浸水防止等に重要な役割を果たしている砂丘前面の浜崖が、高波浪により侵食される可能性があるため、③浜崖後退の抑制が必要。



(2) 目標浜幅50mについて

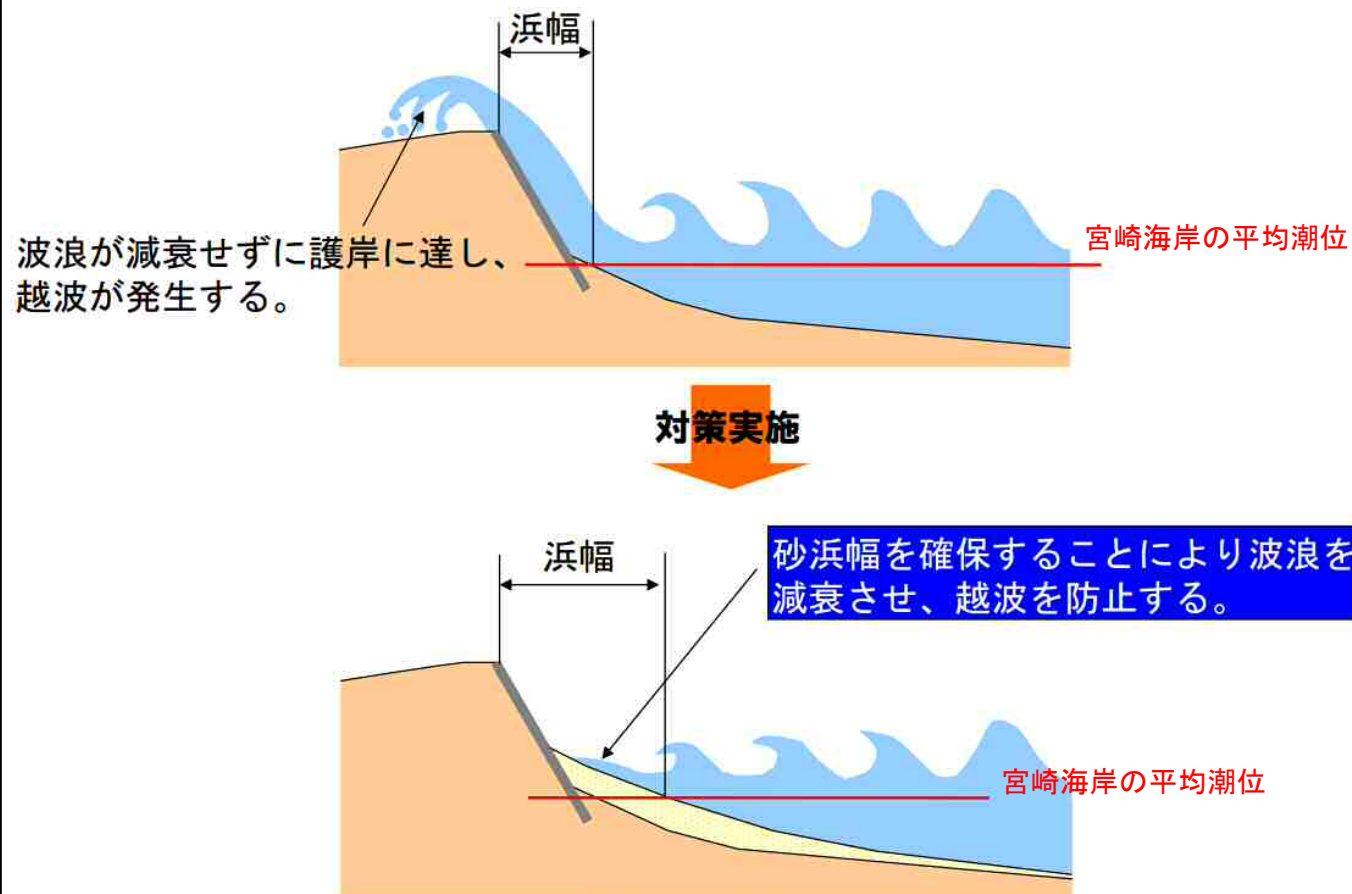
- 21 -

①砂浜確保による防護イメージ

(参考) 砂浜確保による防護イメージ

- 27 -

宮崎海岸での高潮および越波に対する防護は、砂浜の確保により達成する。



(2) 目標浜幅50mについて

- 22 -

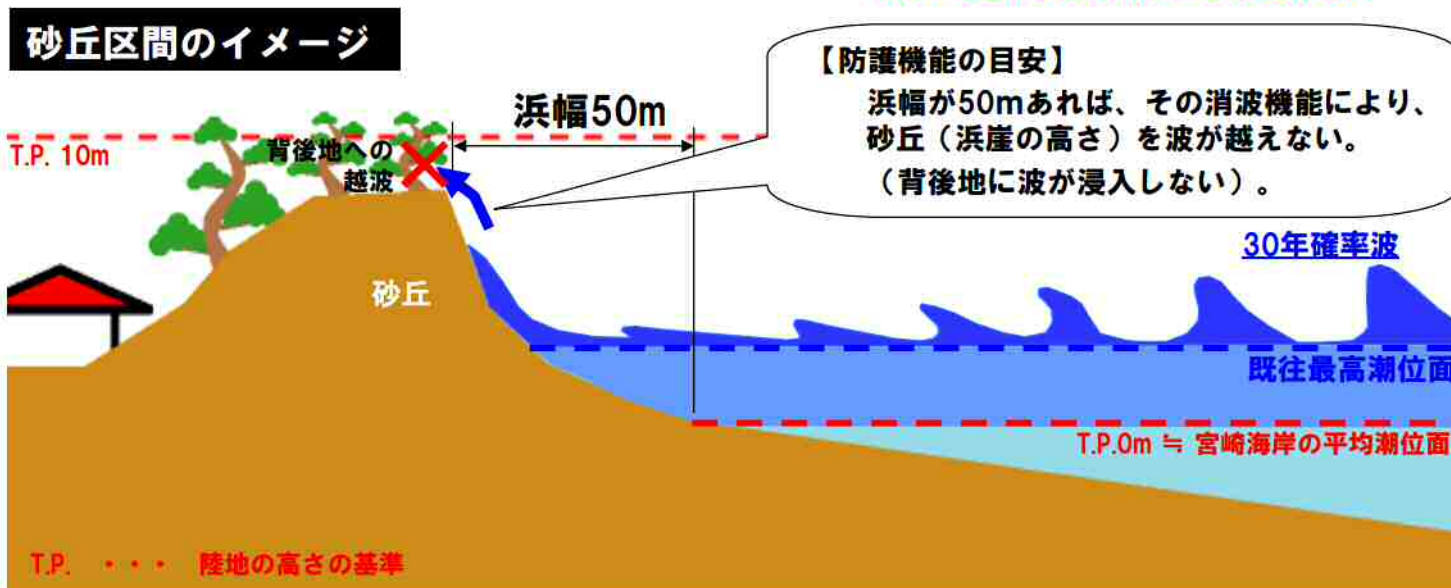
② 目標浜幅50mの防護機能(1/4)

(参考) 目標浜幅50mの防護機能【自然浜区間】

- 29 -

浜崖の法肩※)から浜幅50mを確保する事により、
既往最高潮位および30年確率波浪の外力に対して、
背後地に越波被害が生じないようにする。

※)平成20年12月時点の砂丘形状



(2) 目標浜幅50mについて

- 23 -

② 目標浜幅50mの防護機能(2/4)

(参考) 目標浜幅50mのイメージ

- 30 -

フェニックス自然動物園



一ツ葉有料道路 PA 前



大炊田海岸



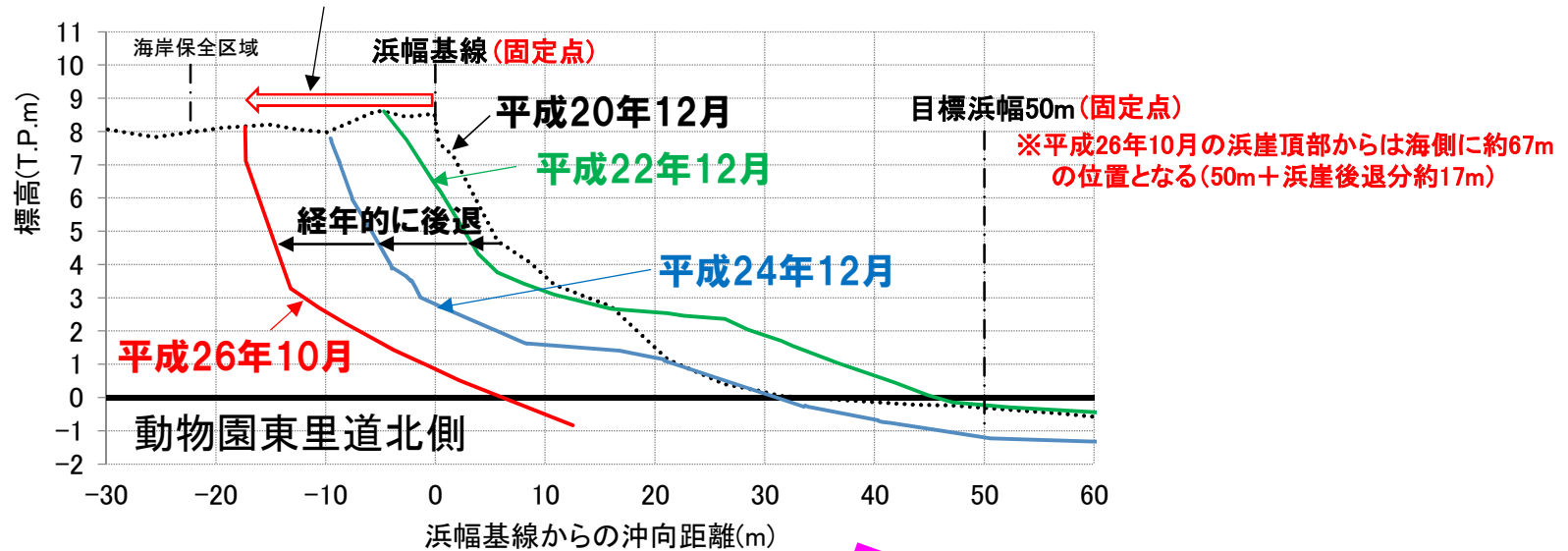
浜崖法肩【基線】は変えない。
→ 目標浜幅位置(50m)は変えない。

(2) 目標浜幅50mについて

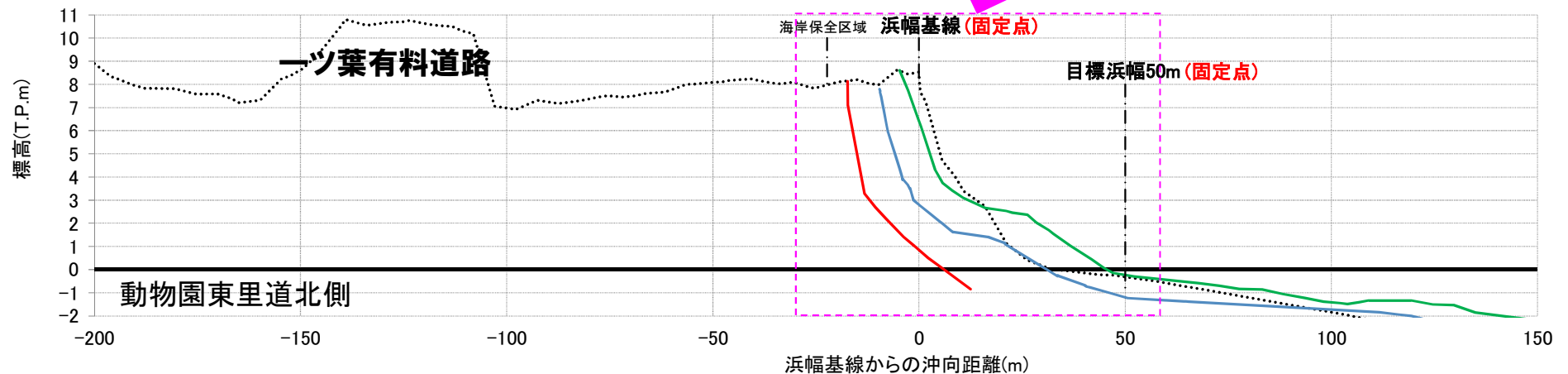
- 24 -

② 目標浜幅50mの防護機能(3/4)

平成26年10月の浜崖頂部位置は、平成20年12月に比べて約17m後退している



浜崖～砂浜部分拡大



(3) 埋設護岸とは

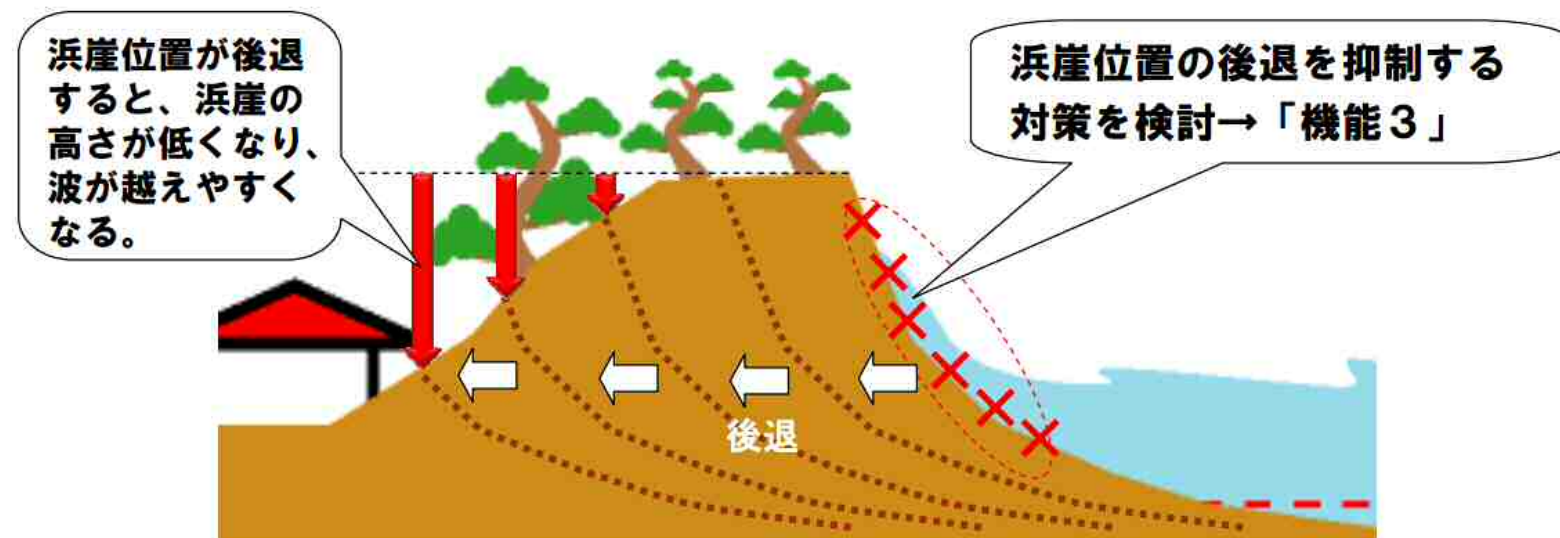
- 25 -

①埋設護岸の機能(1/4)

(参考) 浜崖の後退を抑制する対策

- 31 -

高潮及び越波に対する防護の前提となる砂丘が侵食され、浜崖が後退している区間については、別途、機能3において、浜崖の後退を抑制する対策を検討する。



(3) 埋設護岸とは

- 26 -

①埋設護岸の機能(2/4)

浜崖の後退が生じた理由とその要因

- 19 -

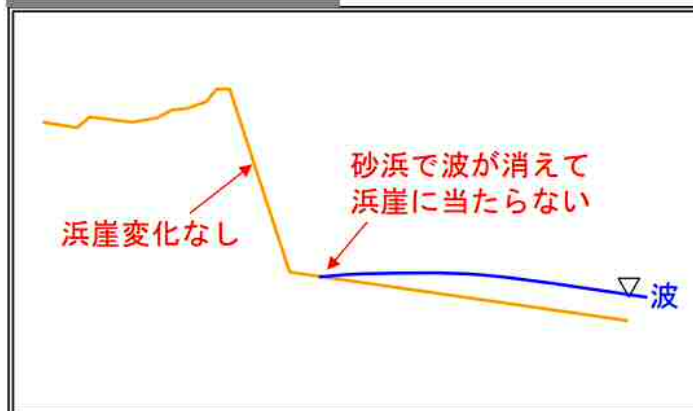
<理由>

浜崖に波が当たり浜崖が崩落

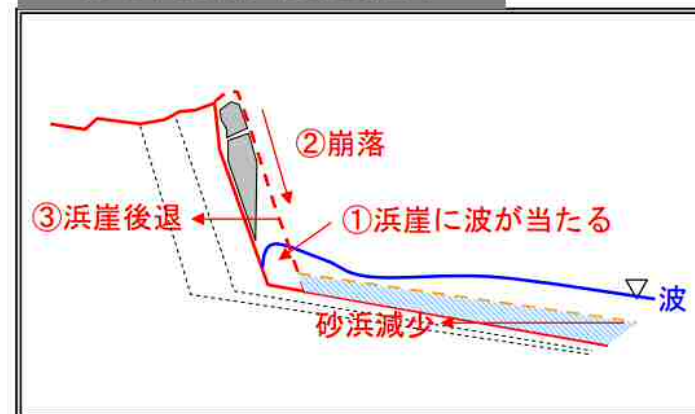
○主な要因：

長期的な地形変化(侵食)による砂浜の減少により、浜崖に波が当たるようになった。

砂浜の減少前



砂浜の減少後(現在)

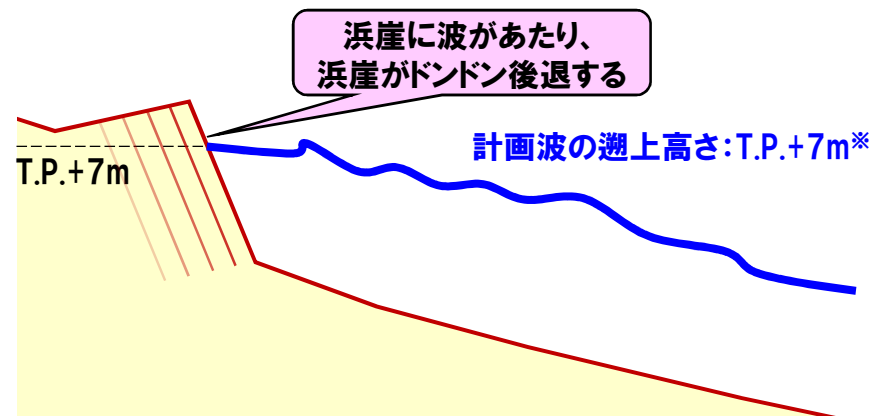


(3) 埋設護岸とは

- 27 -

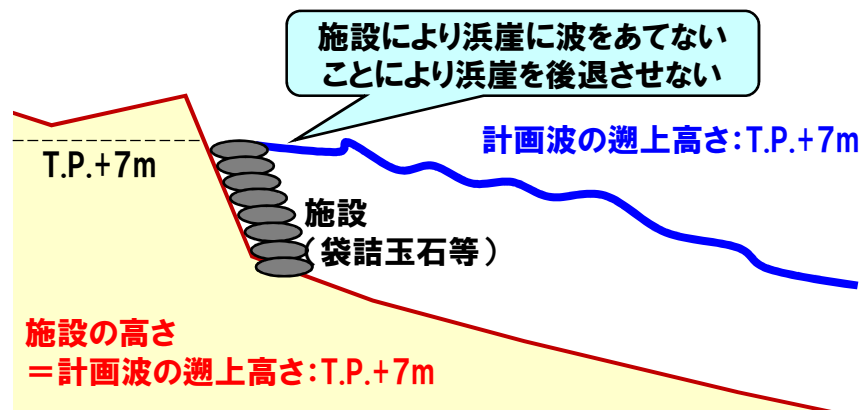
① 埋設護岸の機能 (3/4)

■ 埋設護岸設置前

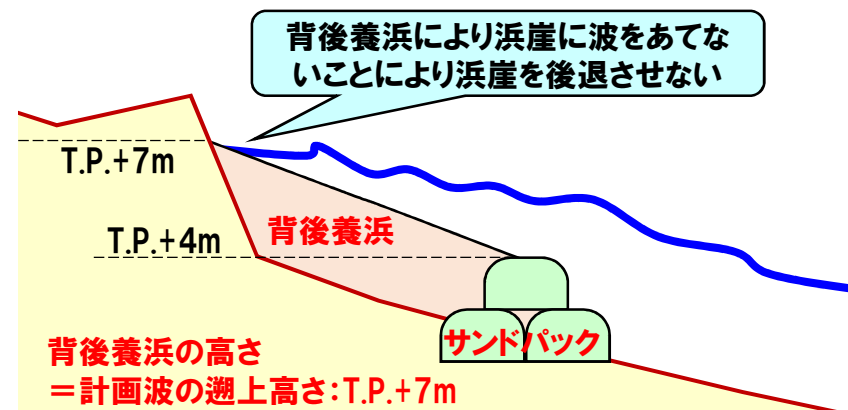


※計画波よりも小さい
年に1回くる程度の
波でも浜崖は後退する

■ 埋設護岸設置後 (サンドバック以外の工法)



■ 埋設護岸設置後 (サンドバック工法)



(3) 埋設護岸とは

- 28 -

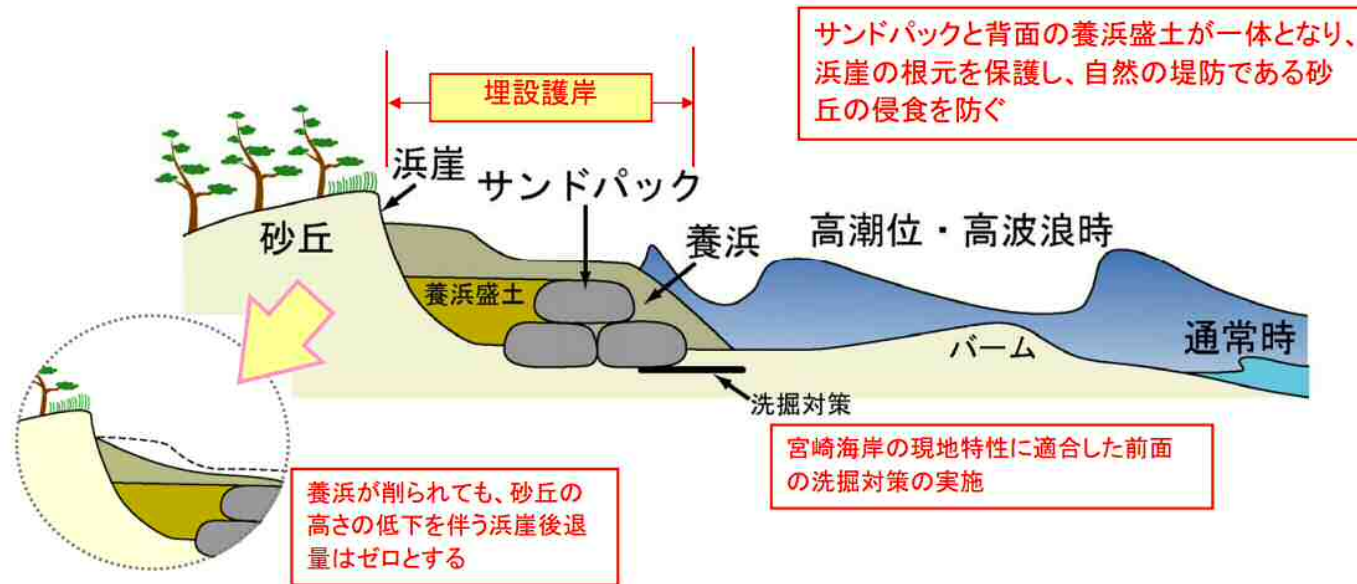
① 埋設護岸の機能(4/4)

基本諸元イメージ(1/6)

- 36 -

断面イメージ

- 宮崎海岸の現地特性に合わせて以下の対応を図ることにより、必要な浜幅や高さを確保して背後地の安全・安心を確保する。
- 埋設護岸の設計は、“浜崖後退抑止工の性能照査・施工・管理マニュアル，平成25年7月（DRAFT）”（以降、マニュアルと略す）に準じて行う。



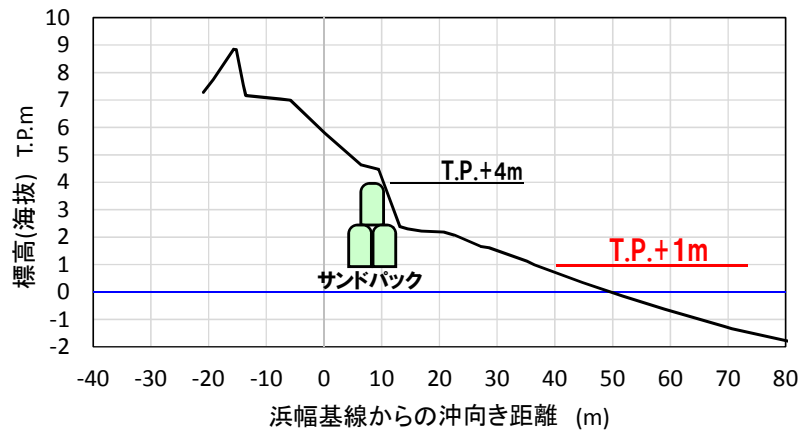
サンドバック工法を適用した埋設護岸の整備イメージ(断面)

(4) 埋設護岸の位置の決め方について

- 29 -

① サンドバックの設置高さT.P.+1mの理由

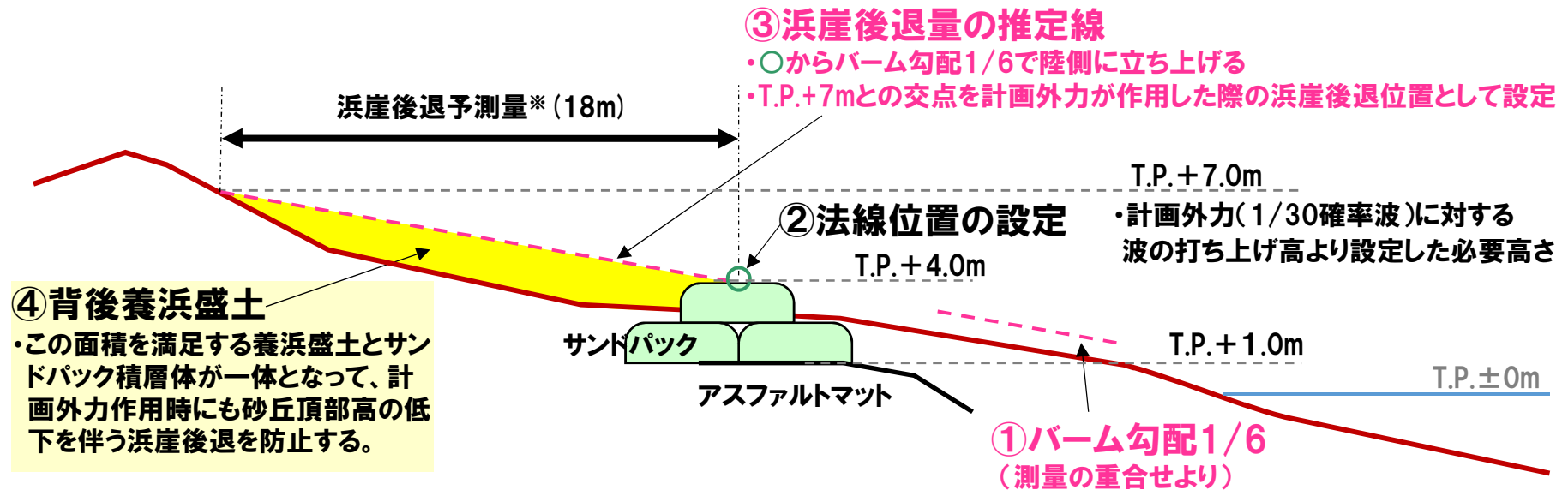
- ・サンドバックの設置高さは、施工上の制約により設定している。
- ・H24年度試験施工の結果を踏まえ、H25年度大炊田海岸の施工時には、過去に最も侵食した地形のT.P.+1mよりも高い箇所に施工した。
- ・その結果、施工時には海水が浸入する等施工は困難を極めたが、関係者の努力もあり、なんとか施工できたため、サンドバック設置高はT.P.+1mとしている。



(4) 埋設護岸の位置の決め方について

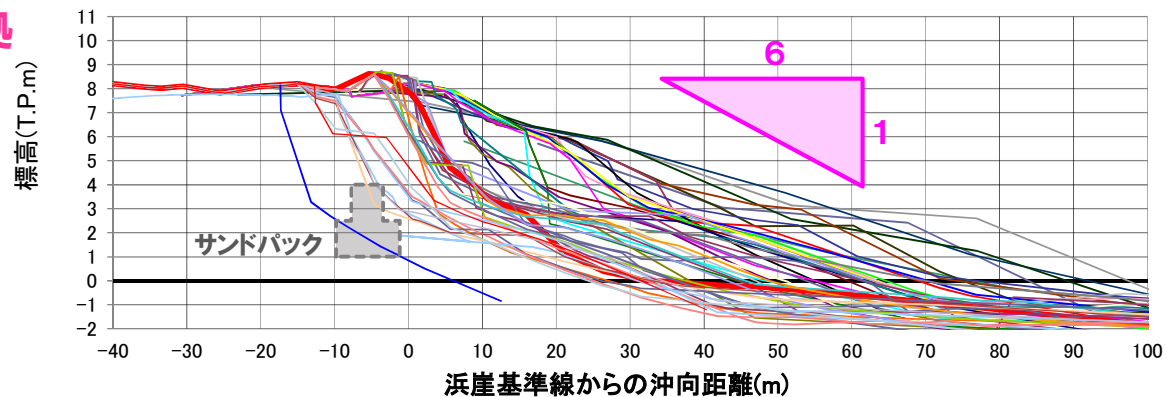
- 30 -

② サンドバックを浜崖から18m離す意味について(1/2)



※: 浜崖後退予測量 = (計画外力の波の打ち上げ高 - サンドバック積層体天端高) × バーム勾配の逆数
 = (T.P.+7.0m - T.P.+4.0m) × 6
 = 18m

① バーム勾配1/6の根拠 (測量の重合せより)



(4) 埋設護岸の位置の決め方について

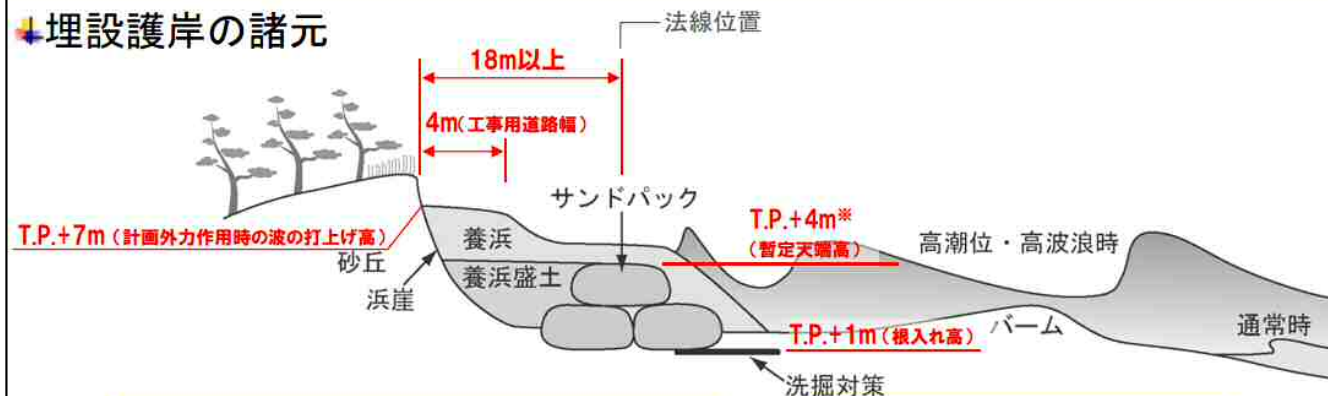
- 31 -

② サンドバックを浜崖から18m離す意味について(2/2)

基本諸元イメージ(4/6)

- 39 -

埋設護岸の諸元

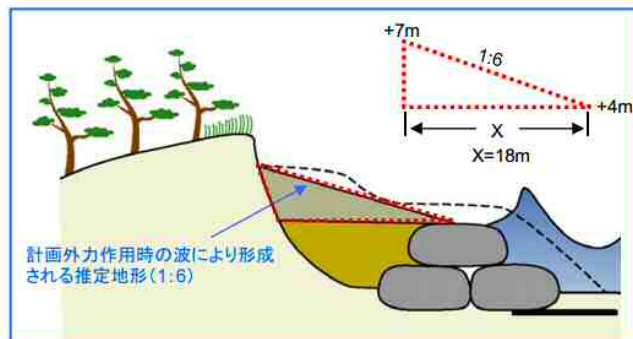


養浜が削られても、砂丘の高さの低下を伴う浜崖後退量はゼロとする

⇒浜崖面とサンドバック間の距離を18m以上確保する

宮崎海岸の現地特性に適合した前面の洗掘対策の実施

⇒アスファルトマットを基本



計画外力作用時の波により形成される推定地形(1:6)



※現時点では天端高は全区間T.P.+4.0mとするが、台風等による高波来襲によって施工前に地形が大きく変化し、浜崖面とサンドバック間の距離を18m以上確保することができない状況となった場合は、天端高をT.P.+5.5m(3段積)に上げるなどの対応を実施する

(5) 埋設護岸のステップアップについて

- 32 -

① ステップアップの考え方

埋設護岸の変状の根本的な原因

→埋設護岸の前面の砂浜が狭くなったこと

埋設護岸の変状を少なくする方法

→埋設護岸の前面の砂浜が狭くならないようにすること

侵食対策の目標である「砂浜を回復し、浜幅50mを確保」
に向けて対策を進めていく必要がある

抜本的な対策

①養浜により北から
流入する土砂を増やす

②突堤により南へ流出する
土砂を減らす

抜本的な対策（養浜、
突堤）を進めていくた
めに、埋設護岸をより
粘り強く変状しにくく
する必要がある

埋設護岸による
浜崖後退防止

埋設護岸は
変状しにくい構造とする

構造のステップアップ

A. アスファルトマットを
めくれ・沈下しにくくする

※細部の構造は変更するが、
サンドバック等の基本構造
は変更しない

埋設護岸は
変状しにくい位置に設置する

法線（設置位置）のステップアップ

A. できるだけ
陸側に設置

B. 海側に突出した
箇所を作らない

C. 過去に侵食した
位置には設置しない

※埋設護岸の設置位置は変更するが、目標浜幅50mと
目標浜幅の基準とする位置（浜幅基線）は変更しない

4. 動物園東の埋設護岸について

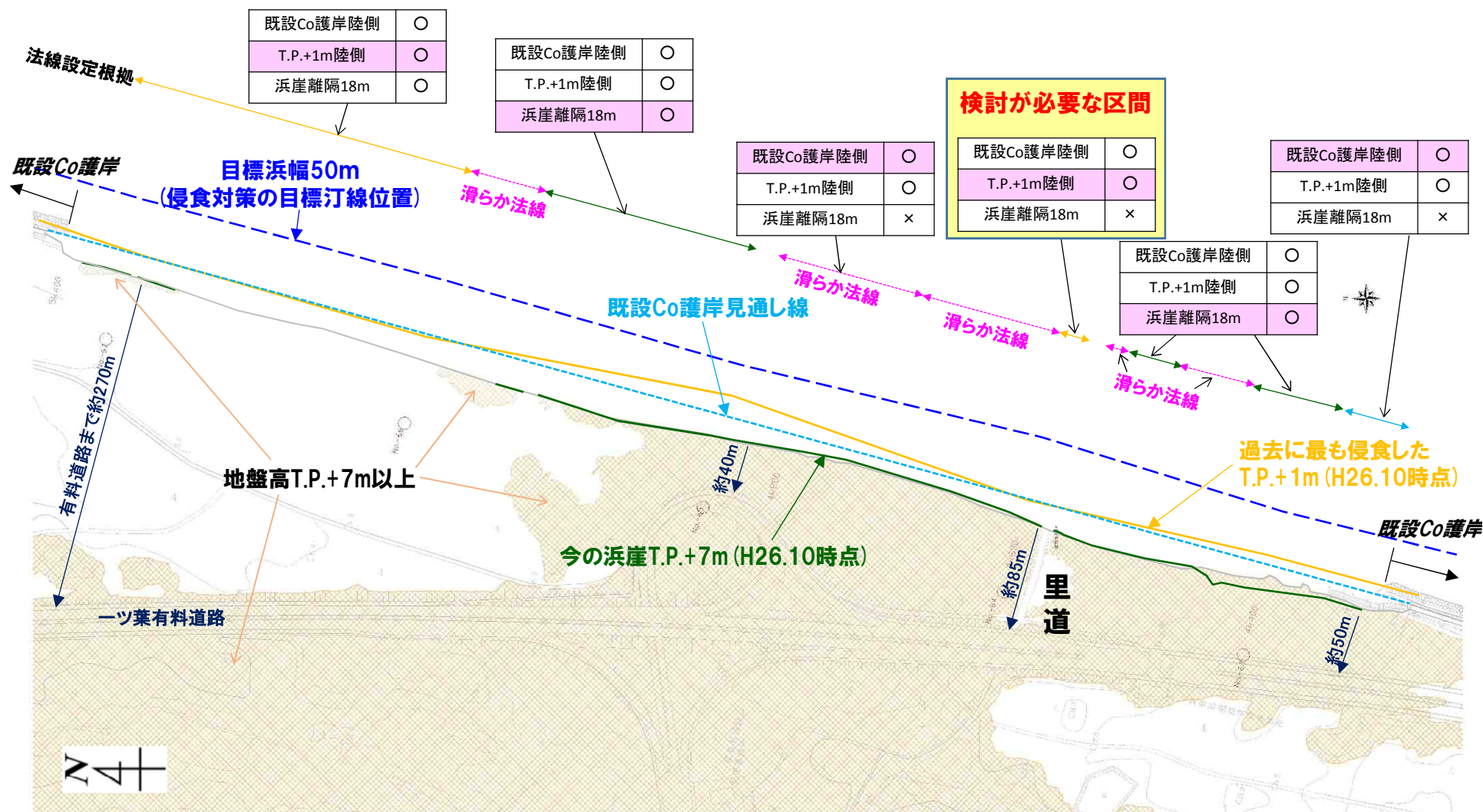


- (1) 検討が必要な区間
- (2) 検討が必要な区間の平面配置の検討ケース
- (3) 検討が必要な区間の平面配置の検討結果
- (4) 参考: 標準断面図・平面図案

①位置の選定

- 34 -

埋設護岸の設置条件が厳しい、砂浜が狭く、浜崖が海側に張り出している里道北側を検討が必要な区間とする



(1) 検討が必要な区間

② 現地の状況

- 35 -

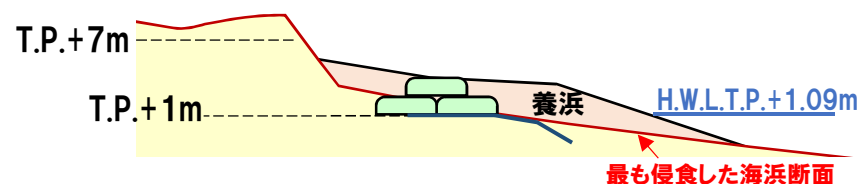


(2) 検討が必要な区間の平面配置の検討ケース

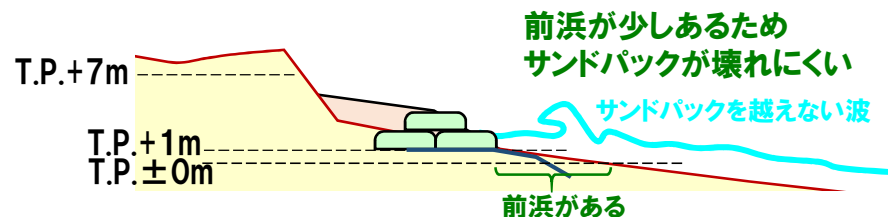
- 36 -

①埋設護岸の岸沖方向の位置

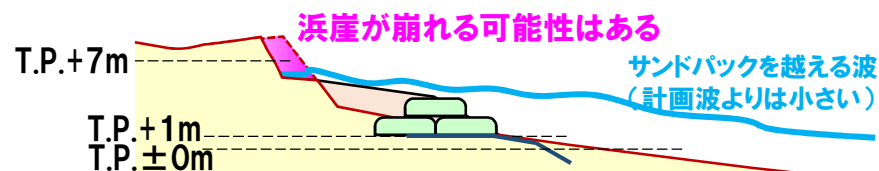
■設置当初



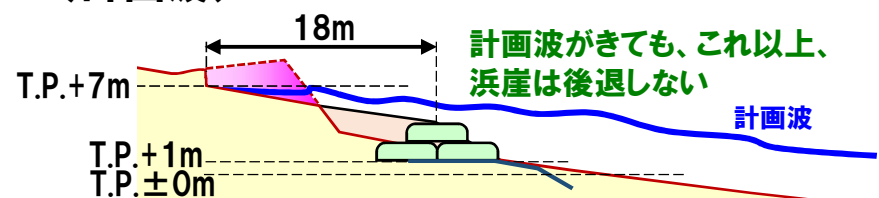
■前面が侵食した場合



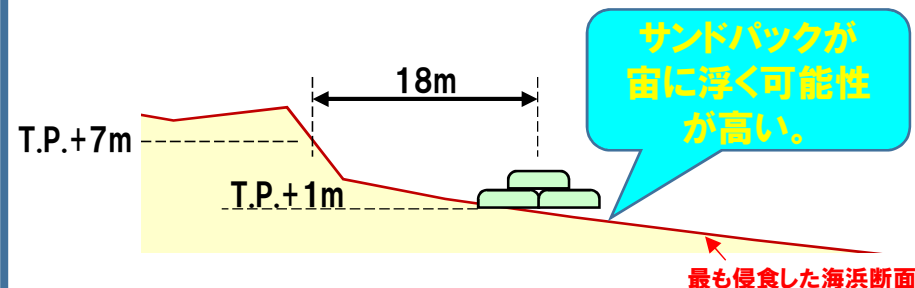
■サンドバックを越える高波浪がきた場合 (計画波より小さい波)



(計画波)



※浜崖から18m海側に設置しようとしても、
サンドバックが宙に浮く可能性が高くなる。



(2) 検討が必要な区間の平面配置の検討ケース

- 37 -

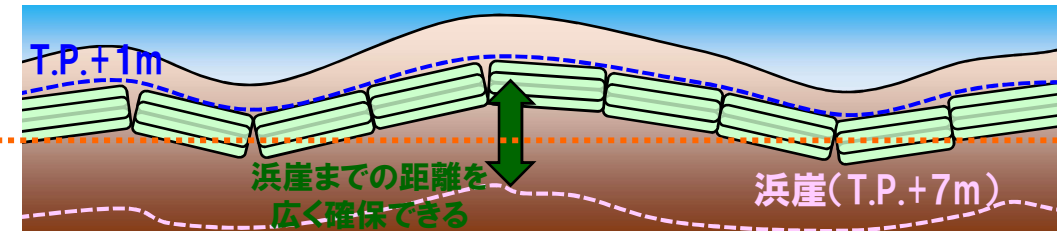
②埋設護岸の沿岸方向の位置

ケースA

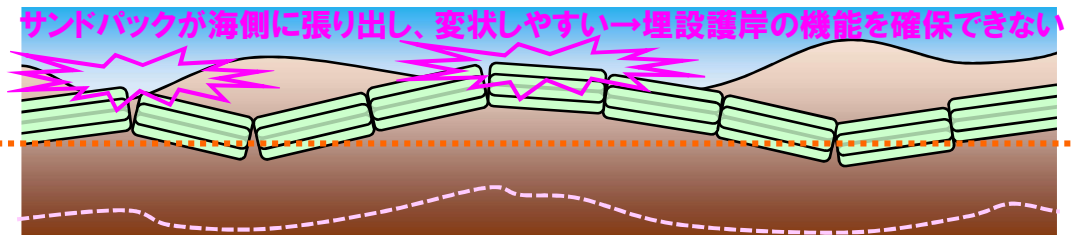
・海浜地形に沿うように埋設護岸を配置

- 浜崖から埋設護岸までの距離を最大限確保できる。
- 海浜地形は突出している箇所もあることから、埋設護岸法線も突出する場合があります、サンドバックが変状する危険性が高くなる。

■設置時



■砂浜が変化した場合

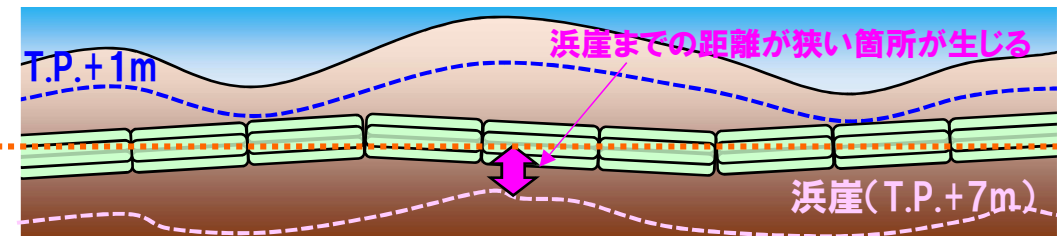


ケースB

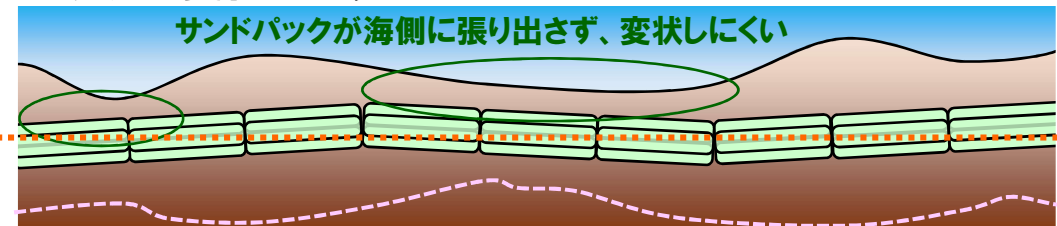
・滑らかに埋設護岸を配置

- 浜崖から埋設護岸までの距離が狭くなる箇所が生じる。
- 埋設護岸法線は海側に張り出さないため砂浜が変化してもサンドバックは変状しにくい。

■設置時



■砂浜が変化した場合



(3) 検討が必要な区間の平面配置の検討結果

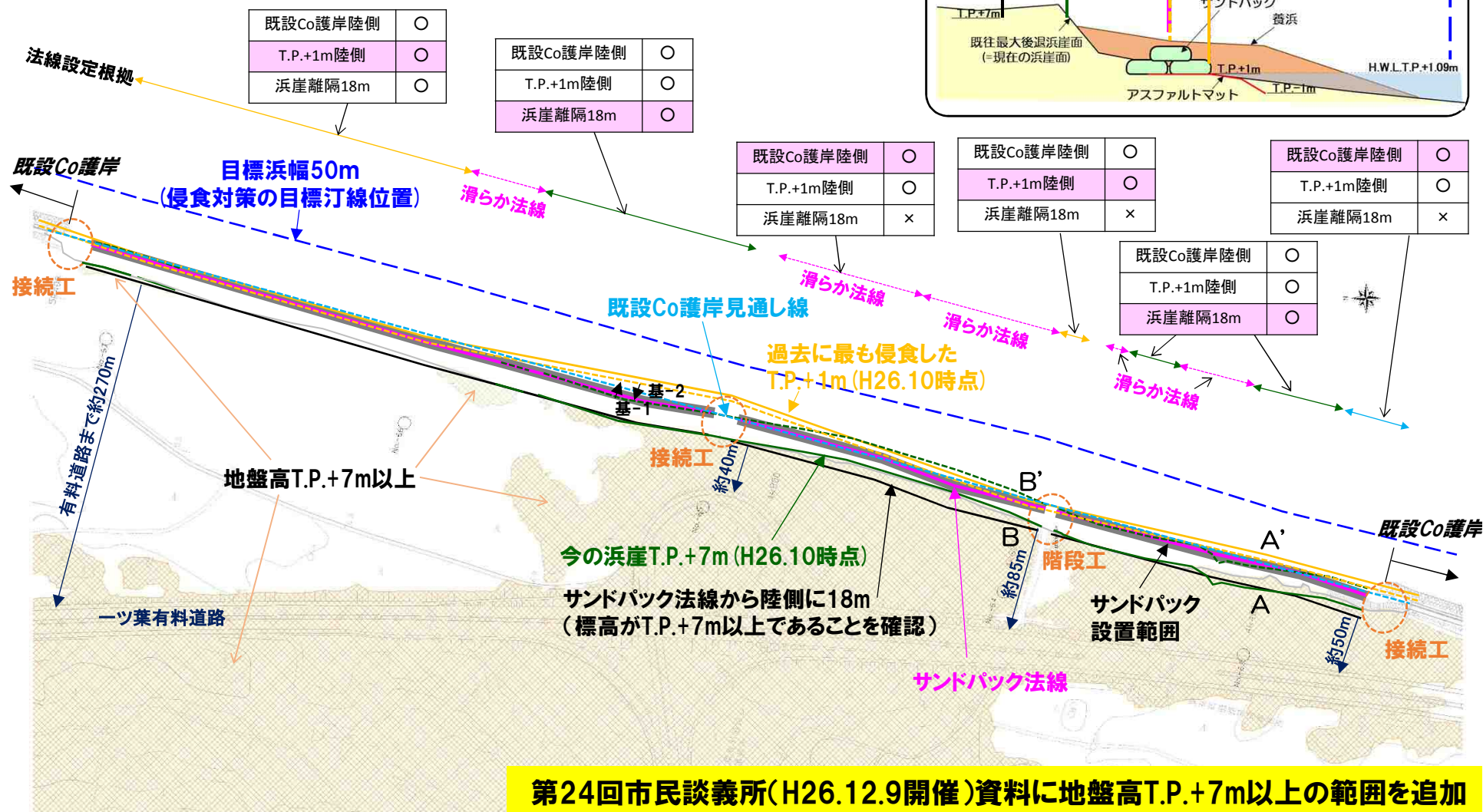
岸沖方向の位置:埋設護岸が壊れにくいように埋設護岸を設置(T.P.+1m以上に設置)

沿岸方向の 位置	今の浜崖の後退しにくさ		サンドバックの 壊れにくさ		背後地に 越波しない
	設置当初	設置 してから 侵食後	海側の砂浜 を確保 しやすい	海側に 張り出さ ない	
ケースA ・海浜地形に沿 うように埋設護 岸を配置	計画波のよ うな高波浪 がくると後退 する恐れが ある	サンドバック が壊れにくく、 後退する恐れ は少ない	砂浜を確保 しやすいが、 <u>地形が変わ ると確保でき ない可能性 がある</u>	<u>海側に突 出する箇所 が生じる</u>	浜崖が一時 後退しても高 さ T.P.+7m以上 あるため越波 しない
ケースB ・滑らかに埋設 護岸を配置	計画波のよ うな高波浪 がくると後退 する恐れが ある	サンドバック が壊れにくく、 後退する恐れ は少ない	砂浜を確保 しやすく、 <u>地 形が変わっ ても確保で きる可能性 が高い</u>	<u>滑らかにす るため海側 に張り出さ ない</u>	浜崖が一時 後退しても高 さ T.P.+7m以上 あるため越波 しない

- 39 -

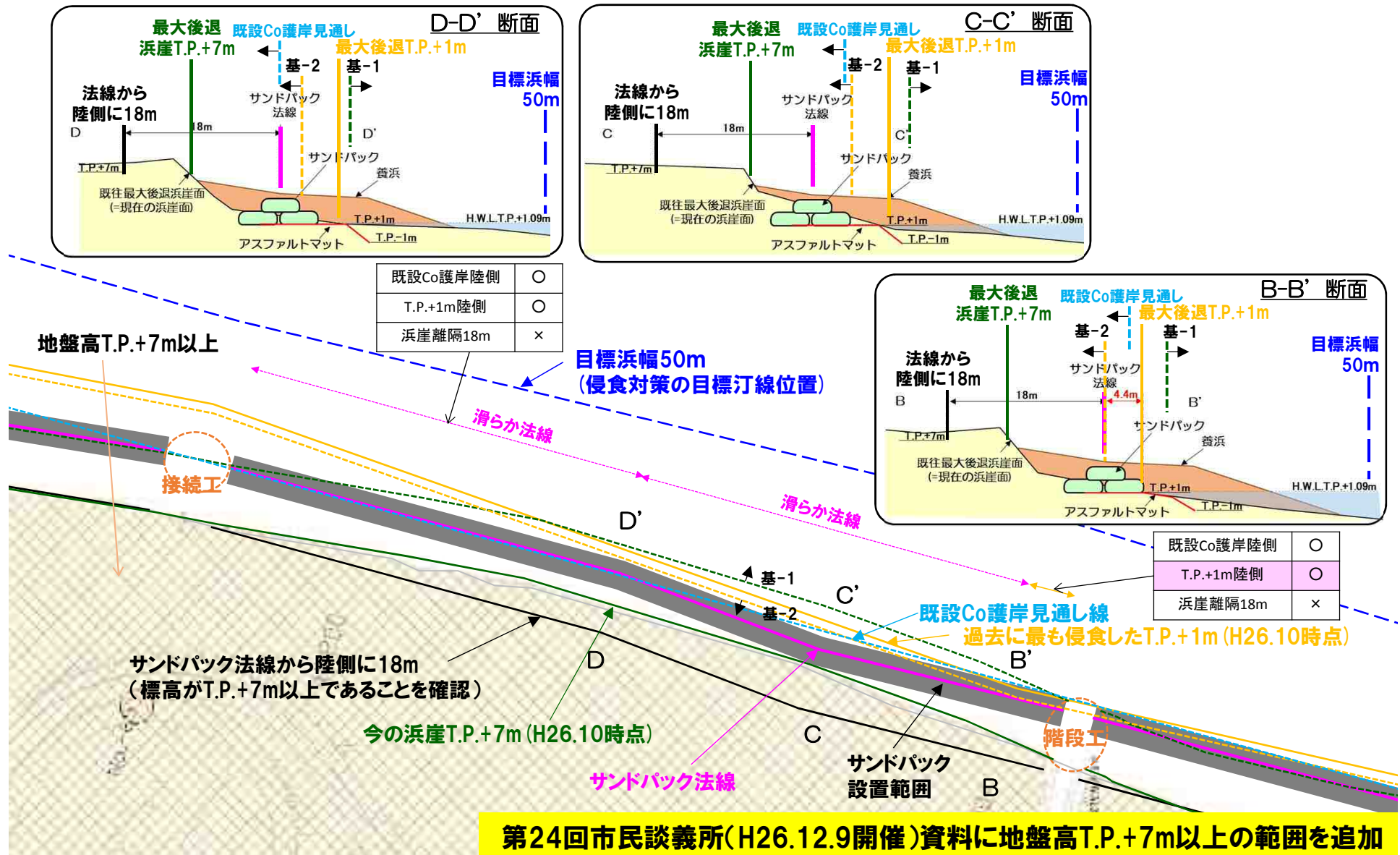
全体平面図 (L=1.1km)

- ・目標浜幅50mにより設定した目標汀線位置は、計画当初と同じである。
- ・アクセスを確保するために、階段工を設置予定。



第24回市民談義所(H26.12.9開催)資料に地盤高T.P.+7m以上の範囲を追加

動物園東里道北側範囲の拡大図及び代表箇所断面図



5. 工事の予定



(1) 養浜

(2) 埋設護岸

(3) 工事用道路

(4) これからの事業の長期的な見通し

(1) 養浜

- 42 -

関係機関との連携により、約8.1万m³の養浜を平成27年3月までに実施予定

場 所	材 料	養浜量	宮崎海岸の侵食対策に求められる機能との対応	主な目的	備考
一ツ瀬川 河口右岸 (陸上)	一ツ瀬川河口 (富田漁港) 浚渫土砂	約1.3万m ³	沿岸方向の流入土砂の 増加	○ニツ立海岸、大炊田海岸への土砂供給	県漁港との 連携
大炊田海岸	みやざき臨海公園 ビーチ整地土砂	約0.3万m ³	急激な侵食の抑制	○浜崖頂部高の低下を抑制するための 土砂供給 ○急激な侵食の抑制に資する養浜	県港湾との 連携
	川南漁港浚渫土砂	約0.6万m ³			
石崎浜	三財川掘削土砂	約0.8万m ³	急激な侵食の抑制	○浜崖頂部高の低下を抑制するための 土砂供給 ○急激な侵食の抑制に資する養浜	県河川との 連携
	石崎浜仮置土砂	約0.2万m ³			県港湾との 連携
動物園東	三財川掘削土砂	約2.8万m ³	急激な侵食の抑制	○浜崖頂部高の低下を抑制するための 土砂供給 ○急激な侵食の抑制に資する養浜 ○サンドバックの中詰材	県河川との 連携
	大淀川河道掘削土砂	約0.8万m ³			国河川との 連携
	川南漁港浚渫土砂	約0.2万m ³			県港湾との 連携
住吉海岸沖 (海中)	宮崎港浚渫土砂	約0.6万m ³	沿岸方向の流入土砂の 増加	○効率的な養浜方法の検討(海中養浜) ○一ツ葉有料道路PA沖への土砂供給	国港湾との 連携
突堤周辺	宮崎港仮置土砂	約0.5万m ³	砂浜幅の回復	○突堤周辺への土砂供給	県港湾との 連携
合計		約8.1万m ³			



(2) 埋設護岸

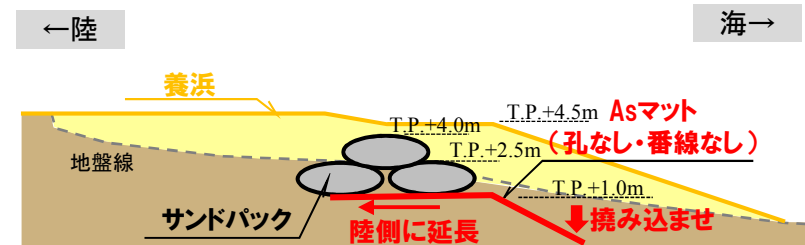
- 43 -

【目的】

□内容

○浜崖頂部高の低下を抑制するための
埋設護岸及び養浜

□工事概要：埋設護岸L=360m



【連携】 ※河川・港湾事業(県)と連携した養浜も実施(予定)

・施工期間：平成26年12月～平成27年3月(予定)



(3) 工事用道路

- 44 -

【目的】

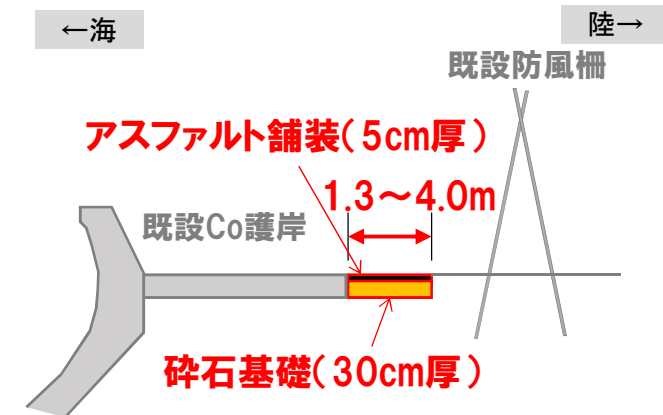
□内容:

○動物園東の埋設護岸・養浜工事のための工事用道路

□工事概要: 工事用道路L=1,390m

(内訳: 海岸沿いL=1,260m, 進入路L=130m)

・施工期間 : 平成27年1月～平成27年3月(予定)



(4)これからの事業の長期的な見通し

- 45 -



整備内容	I 期 (H23~H29)	II 期 (H30~H34)	III 期 (H35~H39)	期待する効果
養浜工 280万m ³	→			砂浜の回復、維持
突堤の整備 L=300m	→	→	→	砂浜の安定
補助突堤の整備 L=150m、50m	→	→	→	
埋設護岸の整備 L=2,700m	→			浜崖頂部高の保持

6. 今後のスケジュール

- 46 -

- 埋設護岸（動物園東）
現地見学会 …… 平成27年2~3月

- 宮崎海岸市民談義所 …………… 適宜実施

- 宮崎海岸侵食対策検討委員会
第4回効果検証分科会 …… 平成27年夏頃